

名古屋港高潮防波堤の建設はすすむ 右下が知多側、左上が鍋田側である。



コダックポジカラー使用

写真提供

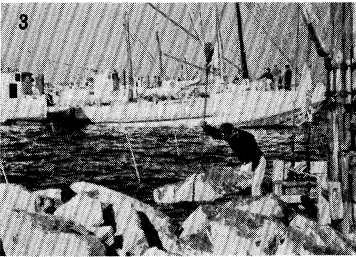
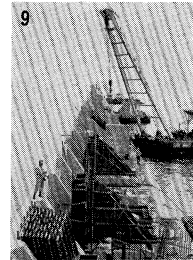
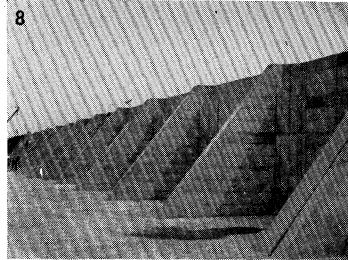
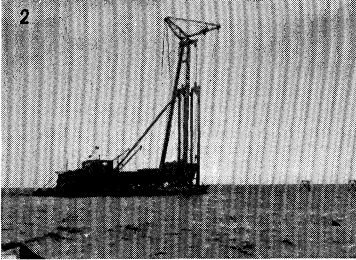
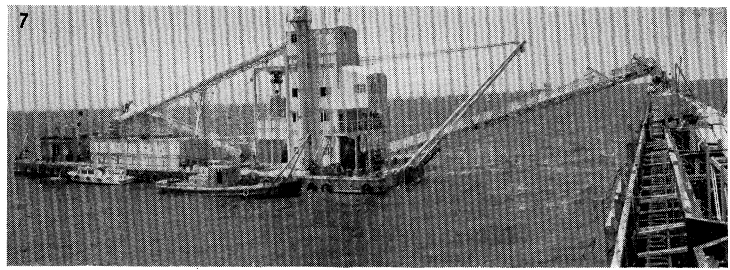
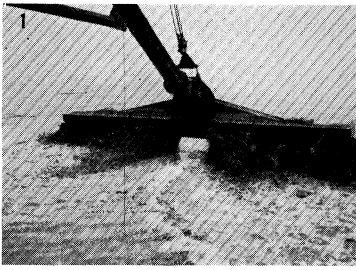
海工特集 ▶



コダックポジカラー使用

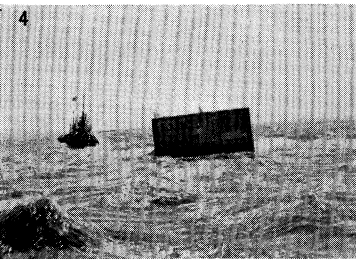
株式会社 水野組

完成近い東京港品川埠頭 この埠頭建設の過程で、お台場が二つ消えた。



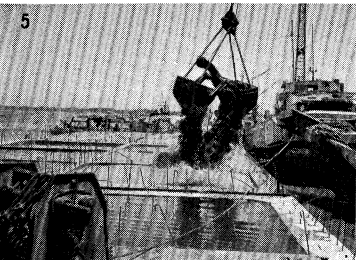
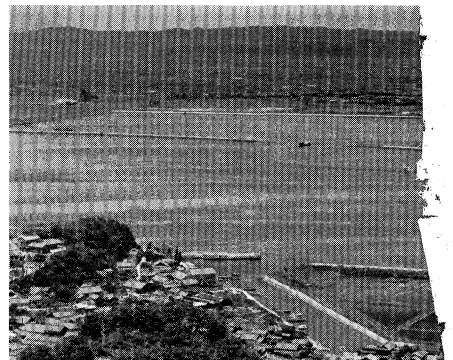
名古屋港高潮防波堤工事風景

1 バージアンローダーによる防波堤敷砂, 2 小型くい打ち船によるサンドパイル打込み・このつぎに着竜によるサンドパイル打込作業がある(本文参照), 3 捨石投入作業, 4 ケーソン曳航, 5 ケーソンへ砂を詰める, 6 ケーソン天端ふたへコンクリートを打設する, 7 コンクリート混合船によるパラベット コンクリート打設作業, 8 パラベット完成, 9 完成した防波堤上で港口部用のパラベットを製作する。



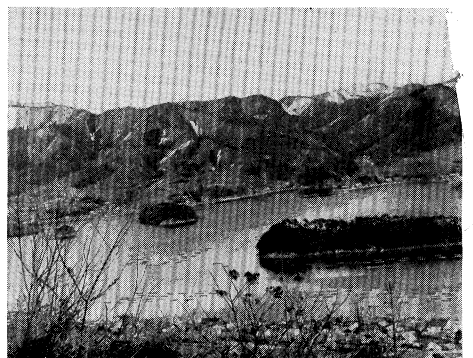
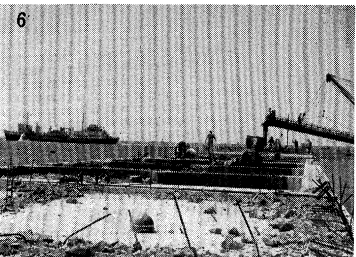
岡山港福島地区近況

右側の河川は「旭川」、正面煙突のある所は倉敷レーヨン用地であり、その手前、および写真左側は同和鉱業KKの用地である。



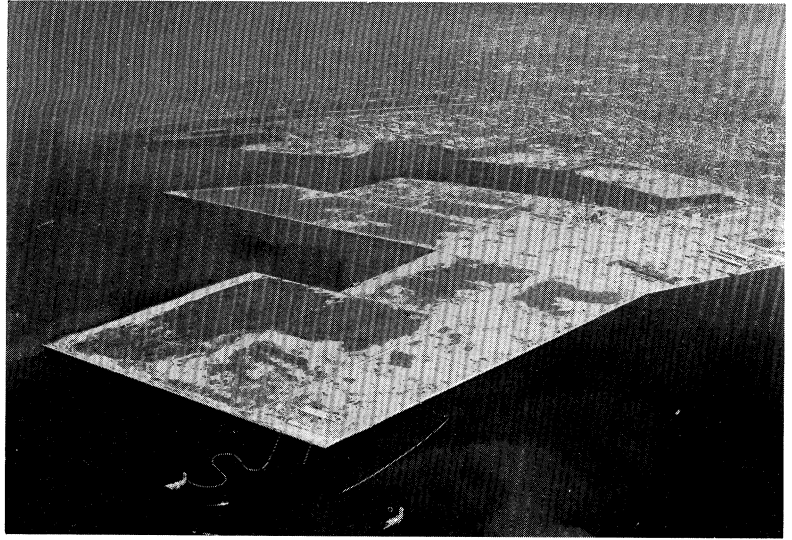
大船渡防波堤全景

中央部、黒線の位置が建設予定地である。



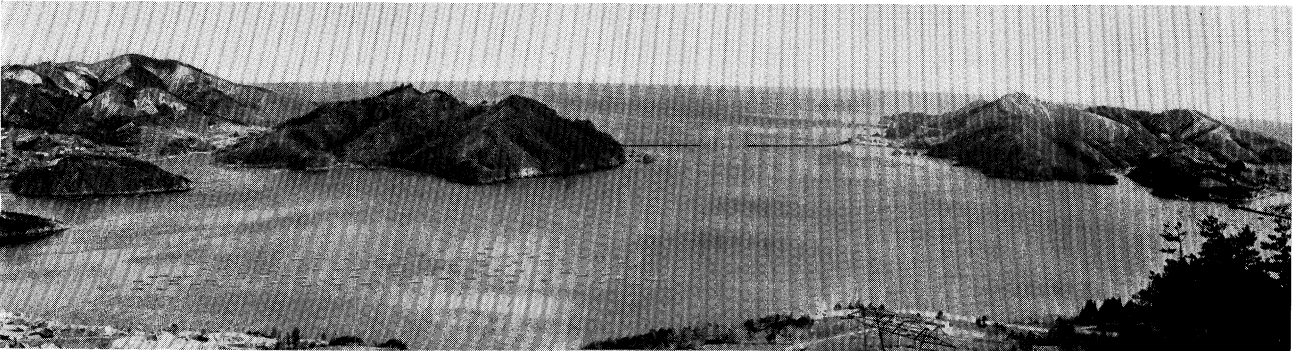
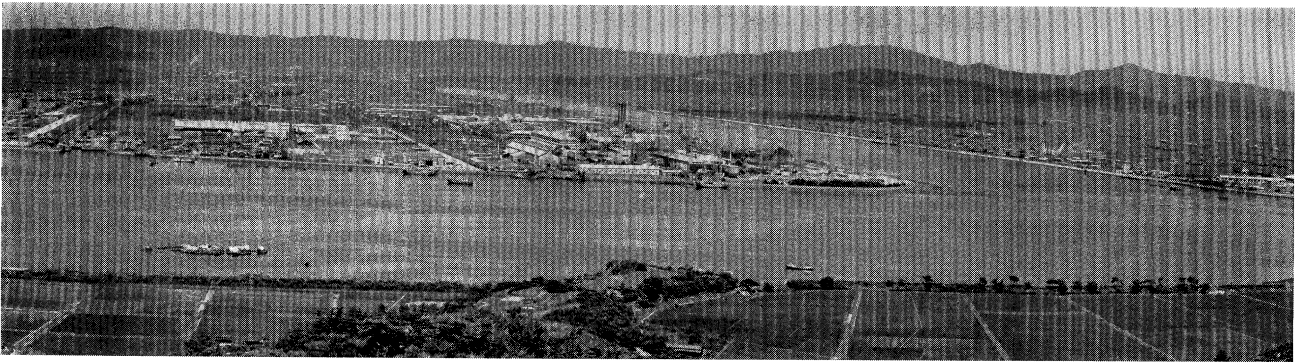
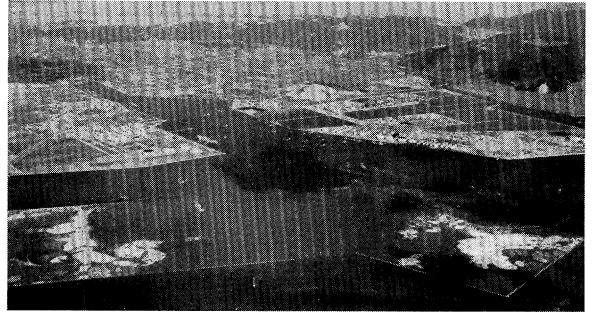
堺臨海工業地帯 造成工事を空からみる

第5, 6, 7工区が手前の広い部分, 中景の河川は「大和川」であり, 大和川と第5, 6, 7工区の間が第2, 3, 4工区である。手前右側の煙突は関西電力KK堺港火力発電所(最終最大出力200万kW)で, 現在発電機一基が稼動中(25万kW)である。

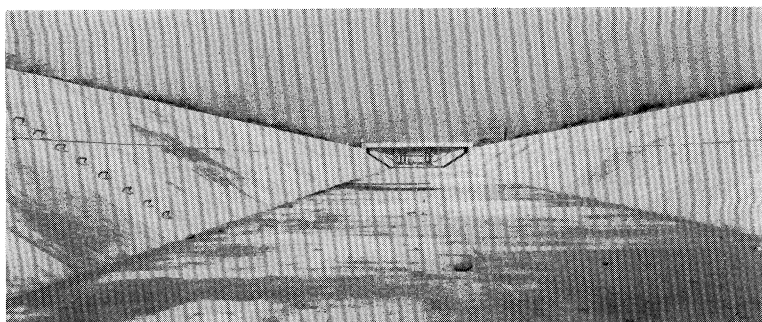


東南より見た水島港

昭和39年12月3日現在の水島港である。(本文参照)

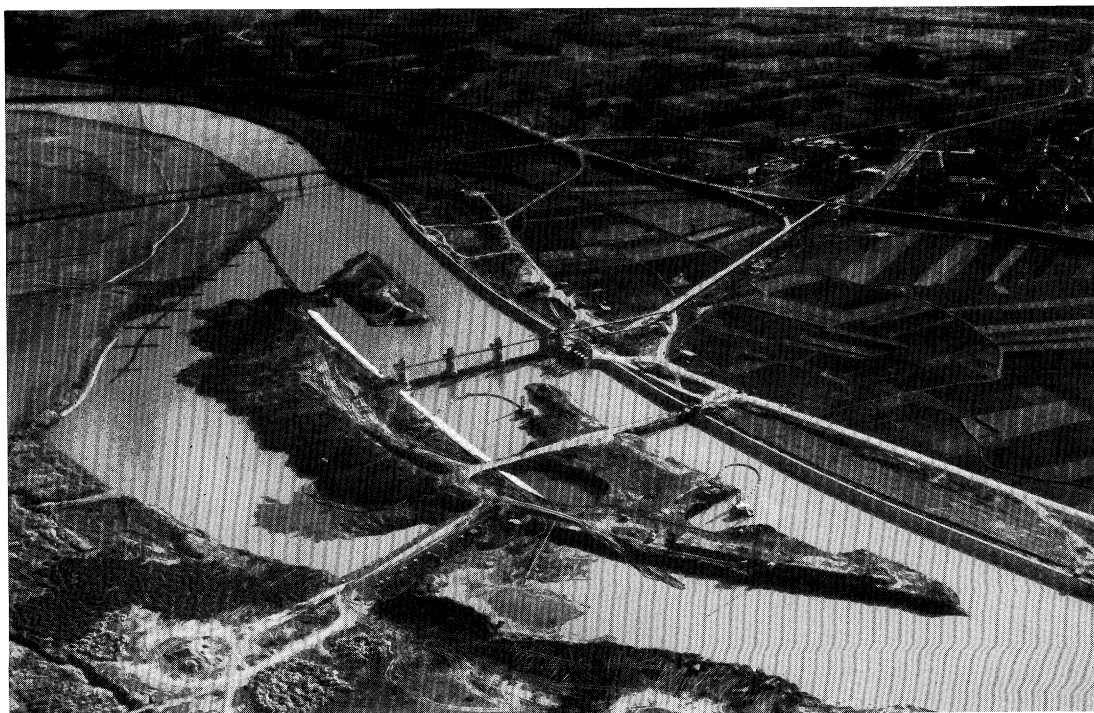
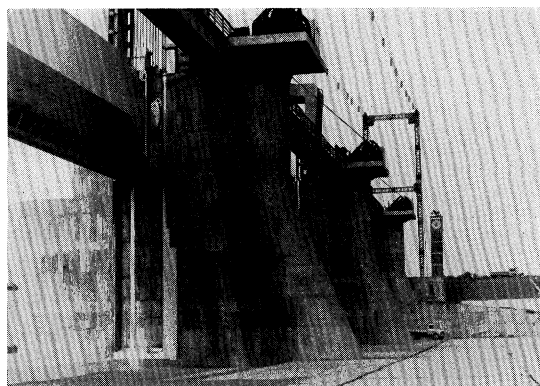
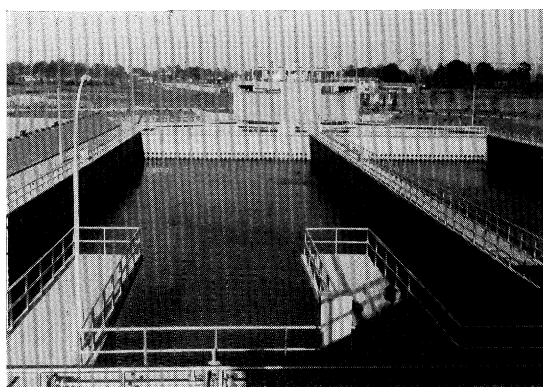


利根川・荒川取水 工事第二次工事は すすむ



水資源開発公団がかねて鋭意施工中の本事業は、昭和38年9月以来の努力の結果その第一次工事を完了し、目下第二次工事として利根川取水のための工事をすすめている。写真-上は完成した武蔵水路、写真-中左は秋ヶ瀬取水せき、同右は水道専用の沈砂池を朝霞水路下流側よりみたもの、下の写真は荒川上流よりみた秋ヶ瀬付近の近景で、右側の白い線の部分が朝霞水路である。

(本文ニュース欄参照)



好評発売中！

B 5 判

土木学ハンドブック

土木学会編

委員長 東京大学名誉教授工学博士 福田武雄

主査幹事 東京大学教授工学博士 奥村敏恵
日本国有鉄道新幹線局土木部長 長浜正雄

主査38名、幹事39名、執筆委員 310名



■内容見本送呈■

技報堂

東京都港区赤坂溜池5 振替東京10番 電話 583-8581(代)

「大型判」発行について

さきに「土木工学ハンドブック」が昭和39年4月発刊されてより、ここに6ヶ月、その間に本書に対する反響はまことに著るしく、関係方面に少なからずその価値を認められたことは、弊社の「わが国、土木工学の進歩発展に寄与する」出版の目的のために、まことに喜ばしいことであります。

これは又、他面、わが国今日の土木工学及び技術の進歩が如何に目覚ましいものであるかを示すものであり、その驚くべき躍進を、学会及び執筆各位ともに心から喜ぶとともに、大きな意義を感じるものであります。

発刊以来今日まで、弊社としましては、本書を広く利用して頂くために、種々検討を重ね、関係方面との緊密な連絡の結果、ここに各読者の反響と助言をもとに、拡大判(B5判)の刊行を企画することに決定した次第です。ここに装を新らたに、B5判の発刊を実現するに至りました。

既刊A5判に対するB5判では文字を大きく、図版を鮮明に、本書の体裁をかえ大方の読者の要望を充したい所存であります。

尚「A5判」低廉版は今後飽くまでも続け、現場及び大学生等の便宜のために普及判と名をかえ活用を願うものであります。

株式会社 技報堂

体 裁

B5判(18.2×25.7cm)背皮特装・函入
特濃用紙使用・図版 5,500余个収載
上巻 1,552頁 定価 7,000円
下巻 1,216頁 定価 7,000円

すべての建設への基準となる一大便覧

刊行のことば

土木学会 会長 山本三郎

昭和29年、土木学会創立40周年を記念して、土木工学ハンドブックが出版されてから早や10年を経過した。土木学会監修の名に恥じぬ立派な大著であり、わが国土工学の進歩発展に多大の貢献を果してきたことを確信するものである。

以来10年、日本経済の驚異的な拡大成長にともない、技術革新の波はあらゆる分野に浸透し、土木工学もまた逞しい発展の道を歩んできた。

新しい理論、新しい工法、適格な設計、巨大な機械による急速施工等、学術技術共10年前とは比較にならぬ発展を遂げたのである。

土木工学は他の工学部門にくらべて極めて広い部門に分れているが、このような学術、技術の進歩発展によって各部門は必然的に専門化してきて分化されるに至った。しかしながら各部門は互いに密接な関連をもって融合調和してゆかなければならないのである。

当学会はこうした背景のもとに、昭和33年8月「土木工学ハンドブック改訂委員会」を設置して旧版の改訂を企図したのであるが、以来今日に至る5年余、その間一時中断したこともあったが、学会創立50周年記念事業として刊行すべく、300名におよぶ新知識を動員してここに刊行を見るに至ったのである。

すなわち旧版を徹底的に分析して、古きは捨て新らしきを採り、各編の調整を考えて慎重な編集によって土木工学の各部門を総合し、もって現代の技術者の利用に便ならしめたのである。本書の編集にあたり、委員長はじめ各委員は数多の会合や、資料の検討に多大な苦心を払われたのであって、その結果は旧版を上まわる堂々たる内容をもった大著となったことはまことに喜ばしい次第である。

今般本会創立50周年に際し、その記念事業の一つとして本書を刊行することができたことは、編集委員、執筆委員および関係者各位の御努力の結果であって心からの謝意を表する次第である。

本書が広く土木工学界に利用せられ、わが国の土木工学の発展に寄与することを念願して本書刊行の序とする次第である。

主要目次

編	題 名
1	数表および数学
2	構造力学
3	土性および土質工学
4	水理学
5	測 量
6	製 図
7	土木材料
8	コンクリートおよび鉄筋コンクリートの施工
9	鉄筋コンクリートの設計
10	プレストレストコンクリート
11	石工構造
12	木構造
13	鋼構造物製作法
14	橋梁総論
15	鉄道橋
16	道路橋
17	鉄 道
18	特殊鉄道
19	都市高速鉄道
20	道 路
21	都市計画
22	上水道
23	下水道
24	港 湾
25	空 港
26	海岸工学
27	河 川
28	砂防
29	発電水力
30	火力および原子力発電
31	ダ ム
32	基礎工
33	トンネル
34	土 工
35	建設機械
36	地質、地震、気象
37	土地改良
38	建築学
	索引
別冊	J I S

切 取 線

申
込
書

	定 価	冊 数	合 計	備 考
上 卷	¥ 7,000			
下 卷	¥ 7,000			

上記の通り申込みます
昭和 年 月 日

御住所
所属名
御芳名

No. _____

御願ひ……
お申込みはこの用紙を御
利用下さい。不要欄には
斜線を引いて消して下さい。

印

土木学会監修

爆 破 付 ANFO 爆薬

工学博士 若園 吉一 共著
工学博士 佐藤 忠五郎

A5判・192頁・定価 900円・〒110

監修のことば

土木学会会長 福田 武雄

土木学会は、昭和25年以来、学会誌に「講座」欄を設け、時宜に適した問題をテーマとし、その分野の専門家を煩わして連載し、好評を博してきた。本書は「実用講座」としての最初の企画である「爆破」について連載されたものを、著者の努力により大幅に改訂加筆し、最近の問題である ANFO 爆薬を新たに書きおろし、単行本の形にまとめたものである。

最近の土木施工は、機械化されまた科学化され、その進展はまことにいちじるしいものであるが、そのうちで、爆破に関しては、あまり深い関心も払われず、何となく等閑視されてきたような気がする。しかるに爆破は、工事の経済性のみならず、とくに安全性の面から見て、深く研究されるべき問題であり、かつ綿密な計画と細心の注意による実施が要求される分野である。

本書は、爆破の問題に関し、長年にわたりこれに取り組んで来られた著者の学識と経験との所産であり、現場技術者のみならず一般土木技術者および学生諸氏にたいし、爆破についての正しい知識を与えるには誠に適切な書ということができ、本書が広く読まれ、それによって爆破が適切に活用され実施されることを期待して監修のことばとする。



株式
会社

鹿島研究所出版会

東京都港区赤坂水川町9
Tel(582)2251・振替東京180883

推薦のことば

わかり易さと権威をもった良書

土質工学会会長 東大教授／最上武雄氏

土木学会誌に講座として掲載されていた爆破が修正加筆されて単行本として発刊されることになった。ゲラ刷りを拝見したのであるが、爆破の爆破用機器、火薬類の取扱い、爆破施工法が公平に説明されているようである。

私自身、現在爆破の知識は皆無だが、爆破の仕事をしなければならなくなったとき、この本によれば一応の知識が得られ、私が有力な顧問を得たような力強さを覚えるであろう。そのようなわかり易さと権威をこの本は持っていると思われる。

工事施工者と研究者が

一体となった貴重な参考書

土木学会出版企画委員会 委員長／森 茂氏

土木学会誌上実用講座として有意義な企画を果たした「爆破」がさらに加筆訂正されて広く一般に発刊されることとなった。火薬類の知識とその取扱い法、その実用による掘削工法等はすべて著者等の長年にわたる研究とその実施の成果であって、工事施工者と研究者が一体となって物された本書は、われわれ土木屋のみならず広く一般読者にとって貴重な参考書となり、また興味深い解説書となることであろう。当学会が本書を出版企画したゆえんもここにあり、本書が広く読まれて活用されることを期待する。

目 次

1. 火薬類／爆薬の性質 爆薬の種類 火工品 爆破用機器
 2. 火薬類の取扱い法／火薬類取扱所および親ダイ作製所 親ダイの作製 結線と防湿 導爆線相互間の結線、導爆線に電気雷管の装着 込め物 漏洩電流の検知 爆破用電源 電気点火器の能力 電気点火器の取扱いと試験方法 現場で使用する発破用母線、補助母線 現場における発破回路の計算 計算例 現場における電気発破の結線方法、不発の原因
 3. 大規模掘削の施工方法／トンネル掘削 グローリーホール ベンチカット 長孔発破 坑道発破 放射状穿孔発破 水中発破
- 付録 ANFO 爆薬 1. 緒言 2. 基礎試験／プリル硝安 爆力 感度
プリル硝安の規格 経時変化と燃料油の分離 起爆、伝爆性

注文書にご記入のうえ、お近くの書店または直接本社にお申込み下さい。

注
文
書

土木学会監修

爆 破 付 ANFO 爆薬

¥ 900 円 110

鹿島研究所出版会

部

ご住所

所属名

ご芳名

㊞